

部

■神奈川県中小企業団体中央会

「環境経営ネットワーク」

61号 2004/09/16 発行

■グループで進める環境対策の事例

1. はじめに

現状では事あるごとに「環境への配慮が重要」といわれています。

企業活動に対しても省資源、省エネルギー、公害対策、廃棄物対策、法令・規則の遵守と言われ続けており、各企業ともそれなりに計画し、実施をされています。納入先からは、ISO14001の認証を取得しなければ取引関係を再考するとか、製品に有害化学物質が含まれていないことを証明せよとか、環境に係わる要求が次々と来ているのが実情です。社会・顧客が要求するこの流れは今後とも続くと考えられます。環境保全に熱心であることを説明できる会社は、取引に関しても長い目で見て有利になります。限られた経営資源のなかで環境に配慮した行動目標を、自社の経営により結果を得られるように計画・運用する工夫をすることが重要です。

NHKの番組「難問解決 ご近所の底力」のように「共通の悩み」を動機として「他所の経験も借りながら、出し合う」智恵と「皆で励まし合って行動する」勇気で、環境を課題として組合でまとまって解決する工夫をした事例を、全国中小企業団体中央会が毎年発行の「先進組合事例抄録」からご紹介します。

2. 事例1. 団地協同組合でのゼロエミッションの取り組み

●事例1-1: 「再生可能な資源ゴミを再生リサイクルしようにも、小規模すぎて業者が引き取りにこない。」そんな悩みに挑戦したのが金沢市、安原工業団地協同組合(平成13年度版)です。この組合は組合員202人、主な業種は機械部品加工業です。回収業者に引き取りに来てもらうために、指定日(毎週月曜日)に事業所から排出される古紙を各社が

(1)上質紙(コピー用紙など)(2)中質紙(雑誌など)(3)新聞紙(4)ダンボールに分別して指定された集積場所に持参することで毎月1.9トンの古紙類が回収再生利用されています。

これによって、従来 廃棄物処理業者に支払っていた費用が節減され、環境に

よい企業活動という評判と共同事業によるご近所とのおつきあいが一寸の努力で得られる一石三鳥の事例です。

http://www.chuokai-kagawa.or.jp/chuokai/sensin/sens_detail.php?ID=13C26

●事例 1-2 : 「産業廃棄物処理費用の高騰に対してどう対処しようか。」それに挑戦したのが厚木市の神奈川県内陸工業団地協同組合（平成 14 年度版）です。組合員 149 人、製造業、物流業などです。

(1)環境委員会を設置して、産業廃棄物処理の状況・リサイクルの現状・各社の悩みなどの実状調査を行い、(2)その調査結果から団地内におけるリサイクルの可能性や実現性、廃棄物処理の効率性、環境マネジメントシステム構築などを検討し、(3)組合員に発表・共有し、実施計画をたてました。

実施事業のうちわかりやすい例として、団地内で資源再生事業をしている企業やすでに資源回収業者に回収依頼をしている企業を参考にして、団地内の他の企業が自社の同様な廃棄物の収集について依頼可能な条件（例；形態、性状など）を検討し、各社が廃棄物の清浄化や分別を工夫して、依頼可能な条件に合うようにしています。

<http://www.chuokai.or.jp/ac/data/2002/02D80109.pdf>

3 . 事例 2 . 協同組合で ISO 認証取得

●事例 2-1 : 「有害な有機溶剤の大量使用、エネルギーの大量消費に対して、取引先からも自社コストの点からも削減が必要。精一杯の努力をしているのにどうしたらよいか。」組合員 67 名の鳥取県金属熱処理協業組合（平成 13 年度版）は、「同業だから、各社の智恵と工夫を持ち寄って解決したい。そのためには仕組みを共通にすることがポイント」と考えて ISO14001 の認証取得に取り組みました。認証取得に伴う環境保全活動の結果、

(1)電気使用量を 2 年間で 10%削減 (2)産業廃棄物の削減 という直接的なメリットだけでなく、組合に対する信頼度が高まり、組合員企業の有利な営業展開につながりました。

http://www.chuokai-kagawa.or.jp/chuokai/sensin/sens_detail.php?ID=13C36

●事例 2-2 : 「組合員企業が ISO14001 認証を取得していないという理由で取引停止になった」などから神奈川段ボール箱協同組合（平成 15 年度版）は ISO14001 の認証取得に取り組みました。取得の費用と作業ロードを削減するため調査検討をおこない群審査を選定し、スタートから 14 ヶ月後 5 社 7 事業所が認証を取得しました。認証取得した各企業は

(1)認証取得により取引先の見る目がか変わったという営業メリットの他、
(2)マニュアルや手順書を守ることを実践 (3)業務改善のための仕組みが動き出すなどマネジメントの改善で社内が活性化しました。

<http://www.chuokai.or.jp/ac/data/2003/03B110164.pdf>

4.まとめ

「環境対策」はやりかたによっては事業改善につながる可能性があります。
上記の4事例でも、当事者にとっては工夫を重ね、花も嵐も踏み越えての達成であったことでしょう。そのポイントや苦心談を皆様がフォローしやすいように、中央会の資料から4事例、そのうち2つは神奈川県的事例を紹介いたしました。

これらの事例を参考にされて、各企業におかれましてはますます環境対策の活動の成果をあげられるよう期待しております。

環境対策の活動について、ご相談、コンサルティングに応じられるよう神奈川県技術士会では体制を整えております。

神奈川県技術士会 環境マネジメントセンター 服部 道夫

「環境経営メールマガジン」の全過去ログを見ることができます。

<http://itnet.chuokai-kanagawa.or.jp/chuocomdb/mm.html>

また、環境経営メールマガジンの他にも、IT、生活、技術などメールマガジンを発行しております。(上記URLで内容を参照できます)

是非、ご一読を・・・!

神奈川県中小企業団体中央会 <http://www.chuokai-kanagawa.or.jp/>

メールマガジン「環境経営ネットワーク」

■コーディネーター■

神奈川県技術士会環境マネジメントセンター

中村正二(中村技術士事務所 所長)